

講義ユニット名	人体発生学		所属科目名	人体構造学
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)	
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネー ター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)	
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp	
授業方法	講義中心、印刷物配布、スライド投影、顕微鏡観察、胚標本作製・観察			
概要	<p>「医学一般」の「個体の構成と機能」の「個体の発生」  「病因病態」の「遺伝子異常と疾患・発生発達異常」  「人体各器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療」の「人体各器官の正常構造と機能」  「全身に及ぶ生理的变化, 病態, 診断, 治療」の「成長と発達」「加齢と老化」</p> <p>に関連する項目を扱い、以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成体で見られる構造に発生過程が反映されていることを知り、成体の構造の必然性を理解する。</li> <li>発生過程の変異により、いわゆる先天異常が引き起こされることを知る。</li> </ul>			
講義ユニットの 到達目標	<p>進化の基本的な考え方を説明できる。  生物種とその系統関係を概説できる。  アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹を概説できる。  配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像を説明できる。  体節の形成と分化を説明できる。  体幹と四肢の骨格と筋の形成過程を概説できる。  消化・呼吸器系各器官の形成過程を概説できる。  心血管系の形成過程を説明できる。  泌尿生殖器系各器官の形成過程を概説できる。  胚内体腔の形成過程を概説できる。  鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程を概説できる。  神経管の分化と脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系の形成過程を概説できる。  生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。</p>			
講義日程	別途通知する。			
出席の取り扱い	講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。			
評価項目	筆記試験, 講義への参加態度			
評価法	筆記試験の結果と講義への参加態度を総合的に評価する。			
履修上の注意 アドバイス	<p>人体発生学は三次元的な人体構造が時間軸に沿って形成される過程を学ぶ学問である。つまり『四次元』の事象を学ぶことになる。一方で教科書や図、配布される講義資料は二次元情報である。学習対象と学習資料との間にある二次元の乖離が人体発生学を難しくしている。講義中にも適宜使用するが、乖離を一次元に留めるために、人体発生学の学習では動画を活用するとよい。今は様々な動画資料が世の中に満ち溢れている(もちろん、その真偽や著作権については各自で慎重に見定める必要があるが)。なお、動画資料を探す場合、英語のキーワードを使うことで、日本語で探す時の10倍以上の資料や情報を得ることができる。</p>			
推奨参考書	参考書の詳細については講義の中で紹介する。			